

「中学生の部」

(金賞)

〔自転車のマナーについて〕

堀内 彩萌

石川県金沢大学教育学部付属中学校二年

ある日、リビングでテレビを見ていると「キキキーガシャン」という音が聞こえてきました。私の家は交差点のすぐ近くにあり「また車の事故かな」と思いながら窓から覗いてみると、そこにはブレーザーをきた高校生らしい男の人が、倒れた自転車を起こそうとしていました。私と母は、驚き急いで家の前に走って行きました。車を運転していた人は女の人で、心配そうに必死に問いかけていて、幸いどこにも怪我がなかったようでした。高校生は「大丈夫です、大丈夫です。」と繰り返していました。ふと自転車から2メートルくらい離れた所に、携帯電話が落ちているのが目に入りました。携帯電話は折りたたみ式のもので、開いた状態で転がっていました。母は「大丈夫ですか、怪我ありませんか」と声をかけましたが、高校生は「大丈夫です。」と言いながら、携帯電話が壊れていないか気にしているようでした。大事に至らないようで、私は家にもどり事故が怖いなどしばらくどきどきしていました。でもあの開いたまま落ちていた携帯電話が頭からどうしても離れませんでした。どちらの不注意で起こったのかわからないし、勝手にきめつけられないけれど、最近、私には気になる事がありました。

私は遠方のため通学はバスを利用しています。バスの窓から自転車で通学する人をたくさん見かけますが最近、朝の登校中耳にイヤホン、そして手には携帯電話を持ちながら自転車に乗っている姿を目にすることが多くなりました。イヤホンをして音楽を聞いている状態で、後から走ってくる車の音が聞こえるだろうか。携帯電話の画面を見ながらメールをしている状態で、急に止まった車や脇道からでってくる車に気がつくのが遅れないだろうか。そんな疑問があつたので、私は落ちている携帯電話を見た時、つい結びつけて考えたのかもしれませんが。でもそれらの行為は大きな事故につながるとも危険なことと言っても過言ではないはずです。そして、事故は自転車が被害者であるとは限りません。歩行者との接触事故も全国で年間2千7百件を越していると聞きました。実際の朝の通学時間には小学生も同じ道を歩いていたり、小さい子供からお年寄りまで、いろいろな人が歩いていますから、一瞬の不注意で今度は自転車の自分が、怪我をさせて加害者になることもあり得るわけです。

以前からいわれている自転車のマナーとしての二人乗りや傘差し運転、無灯火なども含め、自分が事故にあつてから、また人に危害を加えてしまつてからでは、取り返しがつかないという事を痛感し、そして今もう一度、自分の乗り方に悪い所はないか確認しなければいけません。今後自分が高校生や大人になろうとも、今と変わらずマナーを守り交通安全の意義をもっていけたらと思いました。

そして再認識した今、自分ができる事として、歩行者への気配りを考えながら自転車に乗りたいたいと思います。